

児童養護施設退所者のアフターケアの現状と課題

- 施設職員へのアンケート調査結果からの分析 -

埼玉大学 伊藤 嘉余子 (3930)

キーワード：児童養護施設、アフターケア、自立支援

1. 研究の目的

本研究では、児童養護施設におけるアフターケア実践の現状と課題及び必要な改善策について明らかにすることを目的として、児童養護施設職員を対象に質問紙調査を実施した。

アフターケアの重要性については、これまでも多くの有識者や現場職員によって主張・指摘されてきているものの、アフターケアの現状や実際について具体的に検証し、必要な改善策について具体的に提案する先行研究は必ずしも多くなかった。

さらに、2005年の法改正によってアフターケアが施設業務として位置づけられた後と以前とにおいて、アフターケア実践の実状がどのように変化したのかについて把握できるような先行調査も行われてはいない。本調査研究によって、法改正後のアフターケア実践の変化あるいは不変化の実態について把握するとともに、今後必要な改善策について明らかにしたいと考えた。

2. 研究の方法

(1) 調査対象と調査方法

全国児童養護施設協議会調べによる「全国児童養護施設一覧(2009(平成21)年3月現在/568ヶ所)」を活用し、全国の児童養護施設に対して調査票を郵送した。送付数568部のうち回収した調査票は150部(回収率26.4%)、有効回答票は141部であった(有効回収率24.8%)。調査期間は、2009(平成21)年8月10日から9月30日である。

(2) 調査項目

下記に示した調査項目について、選択方式及び記述方式にて回答を求めた。回答者の職種は各施設の判断に委ねたが、その理由は、アフターケアの担当者が施設ごとに異なることが予想されたためである。

<調査項目> アフターケア実践において工夫している点		アフターケア実践において苦慮している点	
退所児童から寄せられる相談内容	2008年度に実施したアフターケア	施設で実施しているアフターケアの内容	
アフターケアの主たる担当者	アフターケアで連携しやすい/しにくい機関		

(3) 分析方法

調査項目のうち、選択式及び数値記入式の回答結果については、SPSS 14.0J for Windows を用いて分析を行った。

アフターケア実践において工夫・苦慮している点に関する自由記述については、記述内容をフリー・リストとして捉えた上で、その内容についてヒエラルキー・クラスター分析

を用いて、それぞれの項目が単一の集団の中に現れるような分類学的樹を作成した。さらに、記述内容で用いられた用語について用語分析および構造分析を行い、回答者である施設職員たちが、アフターケアの現状と課題・必要な解決策についてどのように考えているのかを明らかにした。

### 3. 倫理的配慮

収集したデータについては統計的に処理を行い、結果の公表に際して施設や個人が特定されることのないよう十分配慮した。また、エピソード記述内容についても、施設や個人が特定されないよう万全を期した。上記のような配慮を行う旨を調査の目的・趣旨とともに調査依頼文書及び調査票表紙に明記した。

さらに研究結果については、学会等で公表する予定であることも明記し、調査票の返送によって調査趣旨、結果の公表等について了承を得たものと判断した。

### 4. 研究結果

#### (1) アフターケアを行うにあたり工夫している点

施設外との連携（地域資源との連携、助言指導をくれる機関との関係構築など）

施設内での工夫 -a 職員体制、退所者の記録管理システム構築、ガイドライン作成等

-b 入所時からの関係構築、アウトリチ（家庭訪問など）、送付物等

#### (2) アフターケアを行うにあたり苦慮している点

施設外の機関等との問題（地域資源不足、法制度の不備、費用の問題等）

施設内での工夫の限界（職員不足に起因する諸問題、退所者の施設への帰省等）

退所者の抱える問題特性（音信不通、遠方への転居、障害や疾病等）

退所者からの相談内容（借金の依頼、住居関連の相談、頻繁な離職・転職等）

どこまでやったら「アフターケア/援助の終了」となるのか（アフターケアの定義）  
終わりが無いため年々関わるべき子どもが増えていくのをどうしたらいいのか

### 5. 考察

#### (1) 児童養護施設におけるアフターケア専門職員の増員と活動費用の保障

アフターケア専門職員と子どもの元担当職員との連携は必須(子どももそれを求めている)

#### (2) アフターケアを行うための施設体制の整備（職員体制以外の面でも必要）

退所者の記録管理システム アフターケア実施ガイドライン作成 部屋やスペース確保

#### (3) 退所者の地域生活を支える地域資源の充実

児童相談所だけでは不十分 自立援助ホームの充実プラスアルファの資源が必要

（謝辞）本研究は、2009（平成21）年度文部科学研究費補助金（若手研究(B)）によって行わせて頂いた調査研究「児童養護におけるアフターケア - その援助概念と方法の検討」の一部を報告するものです。ご多忙の中、調査にご協力いただき、貴重な資料やご意見をご提供下さいました児童養護施設の職員の皆様に深謝いたします。